揖斐郡教育研修センター通信 第3号

～ 令和5年度揖斐郡教職員夏季研修Ⅱ(特別支援)研修の成果まとめ ～

R5, 8, 7

令和5年度夏季教職員研修Ⅱ(特別支援)を、8月1日(火)に開催しました。今年度は、不破高等学校 特別支援コーディネーター 加納和歌子教諭、揖斐特別支援学校 地域支援センター 谷口靖典教諭からお話をいただき、郡内の学校からお寄せいただいた「困り感」についてご示唆をいただきました。当日は、郡内小中学校から、122名の先生方にご参加いただくことができました。

研修終了後にお答えいただきましたアンケートをもとに、研修の成果をまとめましたので、今後にご活用いただけると幸いです。

1, 参加者の内訳(校内分掌等)

校長	5	4.5%	特支支援員	0	0%
教頭	6	5.4%	通常学級担任	51	45.5%
主幹教諭	1	0.9%	通常支援員	0	0%
教務主任	7	6.3%	副担任	4	3.6%
生徒指導主事	6	5.4%	養護教諭	3	2.7%
保健主事	4	3.6%	特支コーディネーター	6	5.4%
特別支援学級担任	21	18.8%	その他	2	1.8%
通級指導担当	6	5.4%		回答数 112	

- ・ 幅広く様々な校務分掌の先生方の参加があり、特別支援教に関わる関心の高さ、研修の重要性が感じられた。
- ・ 学校単位での参加が「5校」あり、校内研修としての位置付けがなされている学校が多かった。特別支援教育への学校全体における関心の高さを感じられる。

2, 夏季研修講座Ⅱ ご講話・ディスカッションについて

〈 第1部 : 講話 〉

◇ 不破高等学校 加納和歌子教諭 ～高等学校における支援の仕方や具体的対応～

- ・ 小学校だけでなく、中学校や高校へのつながりを考えて支援をしていくことが大切だと感じた。高校でも通級支援があることを知らなかったの、知ることができてよかった。
- ・ 高等学校で必要な力は、目指していく姿として明確になった。不破高の考え方で、夏休み明けに特性がある子にどのように関わっていくか想像することができた。
- ・ 高校の通級のお話を聞く機会はなかなかないので、大変参考になった。高校入学までに身につける必要な力を具体的に示していただき、ビジョンがもてた。
- ・ 高校への進学、社会参加まで見据えた指導や困り感をもつ児童への支援方法が理解できた。高校の通級指導内容や、具体的な児童の指導についてよくわかった。
- ・ 高等学校での個別支援の取り組みが進路指導の参考になった。また、高校での通級指導について知ることができ、小学校では何をしていくとよいのかが分かった。
- ・ 高等学校での特別支援教育について知り、義務教育の段階でどんなことが大切なのか知る機会になった。
- ・ 小学校段階での身に付けておくべき力が明確になり、高校まで見据えて指導する大切さが分かった。
- ・ 高校までにつけたい力が、現在指導していることと同じであることがわかったの、引き継ぎその力をつけるための指導を工夫していきたい。
- ・ 小・中・高の学校の繋がり、支援体制の継続について考えるいい機会でした。支援が必要な児童を担任するのは1年かもしれませんが、その先に繋がる児童の進路のことも考え、1年間でできるだけ力を付けていきたいと思った。児童への配慮やアプローチは異なるが、その学年で身に付けるべき内容(学習や生活態度)はきちんと指導していきたい。

- ・ 義務教育終了後、多くの子ども達が高校進学をしていくので、高校に繋いで行くために、高校で必要となる力をしっかりと身につけられるように支援していきたい。
- ・ 進路指導の場で不破高校の取り組みを紹介したい。

◇ 揖斐特別支援学校 谷口靖典教諭 ～困り感をもつ子ども達への対応の仕方～

- ・ 定型発達の人々の常識を押し付けるのではなく、一人一人の違いや特徴を捉え、教師の側が思いを押し付けすぎずに生徒の行動の裏にあるものを理解しようとする大切さや、ゆったり構えて接することの大切さを学んだ。子どもたちが居心地の良い教室にしていくための「4つのこと」を念頭に置いて、関わっていききたい。
- ・ 困り感をもつ子どもたちへの対応で、言葉にならない言葉を一緒に探すという姿勢が印象に残った。特に「できるという確信をもたせる」という部分に驚いた。「できない」と決めつけるのではなく、だれもができる授業の必要性を感じた。また、できた時、保護者に連絡し、家庭でも褒めてもらうとより効果的になるなど、家庭との連携の重要性を感じた。
- ・ 特性を持った児童が通常学級に在籍する時の気持ちの持ち方を変え、ちょっと常識を変えて見方を変えて困り感の子に接してみるのには、その子の過ごしやすい環境を作ることができることだと改めて感じた。
- ・ 困り感のある児童生徒に信頼してもらえる大人になるためには、一緒に成功したり、一緒に失敗したりする経験をすることが大切だということがよくわかった。
- ・ 日常の支援に必要な児童への対応が具体的で、2学期からの学級経営に役に立ちそう。自身のクラスの発達特性のある児童をイメージして、2学期どのように関わるか考えることができた。
- ・ 「教室の中での当たり前がその子にとっては当たり前ではないかもしれない」と考えるきっかけになった。集団行動が難しい児童にとって、きちんと納得したうえで声掛けや指導を行っていくことが大切だと感じた。
- ・ 子どもたちの言葉にならない言葉をどのようにくみ取っていくかを改めて考えていきたい。
- ・ 視覚的に「具体的にどうすればよいか」を伝えることが特に大切だということがわかった。
- ・ 教員自身の見方や考え方を変えることで、が分かった。

〈 第2部 : ディスカッション 〉

◇ パネラー：加納和歌子教諭(不破高)、谷口靖典教諭(揖斐特支)、宮下佳代子教諭(郡特支部長)

- ・ 具体的な事例が多く出てきたので、自分ごととして考えることができたし、自分の授業や学級経営で、こうしたらいいのかということが少しわかった気がした。
- ・ 「Q&A」は同じような悩みを抱えている先生方が多いことが分かり、内容に共感して研修に参加できた。
- ・ 自分の実践に自信がなかったが、救われた気がした。
- ・ 話し合いの内容が、「具体的」だったのでわかりやすかった。

3. 次年度の研修内容について(希望調査)

- ・ 特別支援に関する研修 … 21.4P
- ・ 教科指導に関する研修 … 13.4P
- ・ 企業や専門機関から講師を招いての研修 … 13.4P
- ・ 教育相談、カウンセリングに関わる研修 … 8.9P
- ・ 危機管理に関する研修 … 7.1P
- ・ ICT活用に関する研修 … 7.1P
- ・ その他、「キャリア教育に関する研修」「学級経営や学校行事に関する研修」「特別の教科 道徳に関する研修」「人権教育に関する研修」等

〒503-2403 揖斐郡池田町田中 555
 揖斐郡教育研修センター 夏季研修Ⅱ担当 竹中 尚士
 TEL : 0585-44-1262 FAX : 0585-44-1263
 E-mail:k21400@mx.gifu-net.ed.jp